



RIKKYO UNIVERSITY

VOLUNTEER CENTER MAIL MAGAZINE

2025.1.8



明けましておめでとうございます。

ボランティアコーディネーターの押山です。

2025 年が明け、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

昨年、ボランティアセンターでは 1 年間さまざまなプログラムを実施しました。

その中で、12 月には新座キャンパスで小学生以下の子どもとそのご家族を対象とした「あそびフェス」を初開催し、約 100 名の地域の方々にご参加いただきました。

「あそびフェス」は、「新座キャンパスを”自分”のあそび場にしよう！」をコンセプトに、コロナ禍の入構制限以降、近隣地域の住民にとって遠い存在になったキャンパスを再び身近な存在にしたいという思いで企画しました。

屋外開催でしたので天候が心配でしたが、当日は柔らかな日差しに恵まれ、参加者の皆さんにキャンパスで存分に楽しんでいただくことができました。

普段私たちが当たり前のように過ごしているキャンパスですが、参加した子どもたちから、「立教のしばふがきれいでした」「紙コップ飛行機を広い場所で飛ばせてうれしかった」などの感想をいただき、普段のあそび場と異なるキャンパスの広い敷地で存分に遊んでいただけたことをうれしく思いました。

ご家族の方々からも「このような機会を作ってください、本当に感謝です。子どもたちに付き合うのは大変だと思いますが、お兄さんお姉さんと遊ぶ機会のほとんどない今の子どもたちにとって、貴重な経験だと思います」など、温かいお言葉をいただきました。

今回の「あそびフェス」では、学生ボランティアサークルのメンバーが紙コップ飛行機や落ち葉プールなど試行錯誤を重ねながら楽しいあそびを企画、子どもたちの笑顔を想像しながら準備に取り組んでくれました。また、会場設営や受付、誘導などの運営面でも、リーダーシップを発揮し協力してイベントを成功に導いてくれました。

当日、会場設営の準備に入る前には、学生ボランティア、スタッフ全員で肩に手をまわし円陣を組み、少し照れながらも大きな声を出してテンションを上げ、子どもたちに負けないエネルギーで臨みました。

イベント終了後の振り返り会で、今回の経験を丁寧に言語化することが大事ですといいながら、私自身、参加者や学生たちのたくさんの笑顔を思い返ししながら「とても楽しかったです」とシンプルな感想を

述べてしまいました。

運営面で学生ボランティアの皆さんに負担をかけてしまう場面もありましたので、今回の課題を今後
に生かし、今年もボランティア活動に携わる学生の皆さんに刺激を受けながら、学びながら、学生の
皆さんの成長を楽しみつつ一緒に活動したいと思います。

新座キャンパス ボランティアコーディネーター
押山 聡子

各コンテンツの詳細は、ボランティアセンター公式【note】からご覧ください！

https://note.com/rikkyo_volunteer/n/n25ccf975e584

**** 今月の CONTENTS ****

■ボラセンからのお知らせ

【1】*参加者募集中！*「海外ボランティア参加者報告会」～立教生が参加した海外ボランティア
の話を聞いてみよう～を開催します！

【2】*参加者募集中！*ボラカフェ「ボランティア団体に会ってみたい！」を開催します！

【3】「災害救援ボランティア講座」受講者募集開始！立教生・教職員は、先着 25 名が無料で受け
られます！

【4】貸し出し開始図書を紹介！

■ボラセン活動レポート

ボラカフェ「ボランティアはじめませんか？」を開催しました！

■ボランティア関連情報

イベント・研修情報

「市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO 2025」が開催されます！

■陸前高田サテライトからのお知らせ

【1】「気仙辺辺(あたりほどり)の春を探して 2025」参加者募集中(陸前高田イタルトコロ大学公式イ
ベント)

【2】(予告)「2024 年度春季陸前高田交流ツアー」開催予定(立教大学陸前高田サテライト事務局
主催)

■□■ 巻末コラム ■□■

皆さん、明けましておめでとうございます！学生コーディネーター3期生の小林友香です。

2025 年がスタートしましたね✨皆さんはお正月はどのように過ごしましたか？

私は、毎年お正月になると、おばあちゃんが送ってくれる大量のおもちを食べて過ごしています。冬休
みはこたつに入って動けなくなるのに美味しいものばかりあって食べ過ぎてしまったので、運動しないと

と知っている今日この頃です。

さて、突然ですが、皆さんにとってボランティアセンターはどのような場所でしょうか？

私は、昨年の秋学期から学生コーディネーターとしてボランティアセンターにいる機会が多くなったのですが、その前も実は普通に相談者としてボランティアセンターを訪れたことがありました。

今回は、知ってはいるけどあまりなじみのない人にも、よく関わりのある人にも少しでも身近に感じてもらえたらということで、ボランティアセンターとの出会いと活動を通して考えていることを皆さんに共有できたらと思います。

私がボランティアセンターに来たのは、昨年の6月頃でした。きっかけは、「大学に入って何か子ども関係のボランティアをしたい」というざっくりした思いからです。初めてボランティアセンターに来た時に対応してくれたのが、スタッフさんと学生コーディネーターの方でした。ちなみに、ありがたいことにこのお二人と今は一緒に活動させて頂いています！

ざっくりと、「子どもと国際系のボランティアに興味がある」と言った私に対し、コーディネーターの方がいろんな質問をしたり、資料やWEBサイトを紹介してくれたりと親身になって相談に乗ってくれました。そんな話の中で、個人的に行っている団体活動の話になり、「ボラカフェとしてやろう」ということで、あっという間にコラボ企画開催という形になりました！

この企画実施までの間、一緒に企画してくれた学生コーディネーターの方を見て、やってみたいなと思い、今自分が学生コーディネーターをしています。

長々と話してしまいましたが、ここからは学生コーディネーターになってボランティアで大事だなと思ったことを話します！

「ボランティアに”参加する”」から、「ボランティアに興味をもってくれる方と”一緒に考える”」立場になってみて思ったのは、「ボランティアには、いろんな立場や方法などの関わり方がある」ということです！

例えば、一口にボランティアに「参加する」と言っても、1dayに参加する、長期で参加する、運営で企画側として参加するなどいろいろな方法があります。

また、学生コーディネーターをしていて学んだこととして、雰囲気づくりや意見を出しやすくするといった働きかけの面でも、学べることが多くあります。こんなことを書きつつも、スタッフさんや同じ学生コーディネーターから学んで、試行錯誤する日々なのですが、何が言いたかったかという、「ボランティアは皆さんの身近なところにあって、皆さんがいるからできる」ということです。

学生コーディネーターになってみて、ボランティアをしてくれる人、興味をもってくれる人がいることが、どれだけ必要なことなのかを感じています。

また、そこに興味をもってくれる学生がいたら、もし一歩を踏み出してくれたなら、一緒に思いを行動に移したいと思い、日々活動しています。

新年が明けて、いろいろなことに挑戦しようとしている方も多いと思います。ボランティアをしてみたい、どこが良いかわからないなど悩んでいる方は、ぜひボランティアセンターにお越しください。

最後まで読んで下さり、ありがとうございました！！

小林 友香

(第3期 学生コーディネーター／コミュニティ福祉学部 福祉学科2年)

立教大学ボランティアセンター

池袋キャンパス(5号館1階)・新座キャンパス(7号館2階)

開室時間:月～金 9:00～17:00

▼ボラセン Web ページ

http://www.rikkyo.ac.jp/campuslife/support/extracurricular_activities/volunteer.html

▼メールアドレス

volunteer@rikkyo.ac.jp

▼X(@rikkyo_volucen)

http://twitter.com/rikkyo_volucen/

▼Instagram

https://www.instagram.com/rikkyo_vc/?hl=ja

▼note

https://note.com/rikkyo_volunteer/

▼YouTube

https://www.youtube.com/channel/UCo5eBf_CcveSsRAccG5rrzw

配信停止を希望の場合は以下の Google Form を送信してください

<https://forms.gle/PRuubMtYvuHVfKoG8>

(C)2019 RVC all rights reserved.
